

やまぐち

桜の森通信

山口県立大学広報誌

2009.4 第3号



公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University



【特集】

山口県立大学で 学ぶ君へ

この半年の出来事

研究室紹介
講義紹介

相談の森

学生紹介
サークル紹介

交換留学

新任教職員紹介

当初予算概要

トピックス

福田百合子名誉教授叙勲受章
キャンパススケジュール

山口県立大学で 学ぶ君へ

～卒業生・修了生からのメッセージ～

山口県立大学は前身の山口県立女子専門学校の設定(昭和16年)以来、多くの学生がキャンパスや地域で各自の研究テーマに取り組み、その成果を糧に社会で活躍しています。今春は平成18年に設置した大学院博士後期課程から初の修了生2名を含む計355人が、学び舎を後に新しい世界へ第一歩を踏み出しました。彼らから後輩、そして未来の県大生にあてたメッセージを紹介します。



「何事にも積極的に挑んで」

県立大学を志望したきっかけは、高校時代の留学です。一年間の留学中、授業でディスカッションや意見を求められ、言語能力だけでなく、自分の意見や考えを持つことの大切さに気づきました。また、日本語を学ぶ友



国際文化学部
国際文化学科卒

もりはら
森原 あや
彩

人に教える機会もあり、日本語教育に興味をもちました。だからこそ、英語教育と日本語教育のカリキュラムや交換留学制度があり、日本の文化・文学や国際的な科目も豊富な県立大学で学び、自分の視野を広げたいと思いました。

県立大学は学生同士、先生方との距離が非常に近いと思います。私も同じ興味を持つ友人に出会い、一緒に教育実習や日本語実習の準備をしたり、模擬授業を練習したりと互いに励ましあってきました。また先生方の親身な指導で、多くの学ぶ機会にも恵まれました。

大学は授業など自分で選択できる部分が多く、興味がある分野にじっくりと取り組みます。私は在学中、アメリカと台湾にそれぞれ1年間留学し、大学の日本語授業にも参加しました。これらの体験を通して、高校時代から抱いていた日本語教育・言語教育法に一層興味が深まり、卒業論文は「What kind of classroom experience makes foreign language acquisition possible?(外国語習得をうながすための授業とはどんなものか?)」をテーマにしました。

大学生活は4年間という限られた貴重な時間です。何事にも興味をもち、積極的に行動してください。私は留学することで、現地でしか会えない、多くの友人らと知り合えました。どんなことも無駄にはなりません。できるだけ多くのことを感じ楽しんでください。



留学したセンター大学で
(右から2人目が森原さん)



「入学時の志を大切に」

管理栄養士を目指すために県立大学に入学しました。私は福岡県出身で、地元にも栄養士課程の大学はありますが、栄養士養成校としての長い歴史が志望の決め手となりました。実際に住んでみると、静かで空気も水もきれいな環境がとても気に入りました。

県立大学の大学院に進学したのは4年の卒業研究を、指導してくれた先生の下で深めたいと思ったからです。先生は、マイペースでおちょこちょいな私のスケジュールを尊重し、実験の内容に対しても「なぜ、そうしようと思うの」という風な問いかけを通し、議論を深めることで進むべき方向性を認識させてくれました。学部、修士課程、そして博士後期課程と一つの研究を母校である県立大学で続けられたことに、とても感謝しています。就職活動は苦労しましたが、最終的には自身の研究分野とつながる企業に就職できました。春からは一人の社会人として、頑張っていこうと思います。

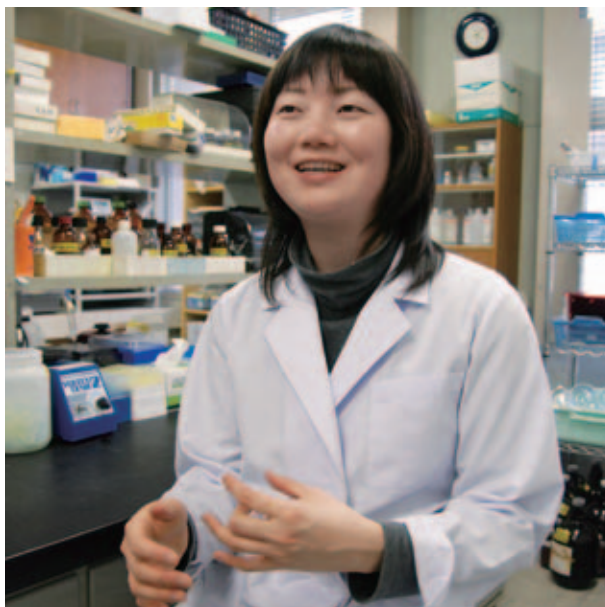
学生の本分は学業です。大学は高校までの「受け身」



語学研修のビショップス大学で
(後列右から5人目が井上さん)

の授業とは違い、わからないこと・興味をもったことは自分で調べ、図書館に足を運び、先生の所を訪ねていく姿勢が大切です。志望する分野を深めていくと、社会人や外部の団体と共同で研

究する機会もあります。周囲は専門家で力不足を感じることもあるかもしれませんが、意欲的に取り組む姿勢は必ず評価され、自身にとって大きな励みにもなり、成果も得られます。自分が何のために入学したのか、その志を忘れず、楽しい大学生活を過ごしてください。



健康福祉学研究科
健康福祉学専攻
博士後期課程修了

いのうえ よしみ
井上 佳美

「学ぶことの貴重さを感じて」

県立大学に入学する前は、他の大学で理学療法を学んでいましたが、自分のやりたいこととのズレを感じて中退し、社会人として一年間働きました。しかし、仕事でさまざまな人と出会ったうちに、もう一度学びたいと思う



社会福祉学部
社会福祉学科卒

ささき かずま
佐々木 数馬

ようになり、自分の希望する「社会福祉」で、編入学制度のある県立大学を志望しました。



ゼミの歓迎会で(後列右が佐々木さん)

県立大学の魅力は、地域との密接なつながりです。社会福祉学部でも講義や演習授業を通して、地域と接する機会があります。授業やサークルから寄せられるボランティア情報も豊富で、私も地元の手話サークルや障害児託児などの活動に参加しました。ボランティアの利用者、その家族、そしてスタッフの方々と関わる中で、ボランティア活動に対する意識が変化し、私自身も新たな学びを得ることになり、交友関係も広がりました。

「大学で学べる」それは、とても貴重なことです。一度、大学生・社会人を経験したからこそ実感しました。また、忘れられないのは進学するため、職場に退職を告げた時です。当時の上司から「中途半端な気持ちや職場から逃げるという理由で辞めるのなら、その後も逃げる道を歩むかもしれないぞ。そうではないのだな」と覚悟を問われました。その言葉があったからこそ、今まで頑張れたと思います。

県立大学はさまざまな興味深い講義があり、サークル・ボランティア活動も盛んです。在学中に積極的に人間関係を広げ、多くの事を体験し学んでいってください。

▶▶▶▶ YPU New Wave

この半年の出来事

昨年9月から今年3月下旬までの主な出来事について、報道発表（ニュースリリース）したものを中心に紹介します。

9/20~28

○北米の学術交流協定校を訪問

江里学長を団長に教職員4人が、センター大学（アメリカ）とビショップス大学（カナダ）を訪れ、交流内容の充実などを意見交換しました。また、今年度の文部科学省の大学教育の国際化加速プログラムに採択された取組みとして、同月14~21日には教員4人が、LOL（Learn on Location=現地学習・体験学習）教育プログラム視察のため、アメリカの大学など4校を訪れました。



センター大のラウシュ学長（後列右端）と懇談した江里学長（前列右から2人目）ら県立大学訪問団



地域に広く県立大学をアピールした初開催の県立大学フェスタ2008

9/20

○県立大学フェスタ2008開催

山口市のニューメディアプラザ山口を会場に、公開授業やサークル活動のステージ発表をはじめ、教職員・学生による相談コーナーなどを開設しました。初めての試みでしたが、生き生きとした学生によって、充実したフェスタになりました。



学生たちのアイデアや運営で盛り上がった華月祭会場

11/1~2

○華月祭・ミニオープンキャンパス開催

本館前広場を会場にバンド演奏やダンスなどのステージイベント、模擬店があり、2日間盛り上がりました。初日に開催した入試相談コーナーには、長蛇の列ができました。

11/5

○江里学長のニコニコ健康相談室開設

地域の方や学生が抱える健康上の悩みや疑問に、医師の江里学長が応じる健康相談が「地域交流スペース Yucca（ユッカ）」で始まりました。開設日は毎月第1・3水曜日で、事前の申し込みが必要になります。（電話083-934-8011）。

11/7

○平成20年度の桜園学術三賞・桜園会賞決まる

大学から優れた研究・地域貢献などに贈られる桜園学術三賞と、桜園会が会や地域社会の発展につながる活動をたたえた桜園会賞が決まりました。

受賞された団体・個人は次のとおり。（敬称略）

【桜園学術三賞】教育賞 坂本美知子（健康サポートセンター保健師）▽地域貢献賞 金恵媛（国際文化学部准教授）

【桜園会賞】功労賞 田中和代（桜園会長門支部）▽奨励賞 県立大学吹奏楽団BLAZE▽同 県立大学山口デザイン研究会▽同 県立大学は一とボランティア実行委員会



桜園学術三賞、桜園会賞を受賞した皆さんと関係者



11/8~9



大学自慢コンテストの賞状を手にするサミット参加職員

○大学職員サミットで本学職員が活躍

これからの大学運営について、大学職員が自らの果たす役割を考える「第2回大学職員サミットやまぐちカレッジ2008」が山口大学であり、全国35大学から計約100人が参加しました。本学からは平成20年度新規採用職員5人が参加。大学自慢コンテストで見事1位に輝き、本学を大いにPRしました。

12/13

○桜の森育成プロジェクトを実施

創立60年を記念し、看護棟キャンパスに植樹した桜の成長を願い、桜園会会員の皆さんや学生、職員らが力を合わせて、木々の肥料やりやりに汗を流しました。



業者の方から肥料のまき方の説明を受ける参加者の皆さん



活発に議論するパネリスト

12/21

○「社会復帰シンポジウム」開催

全国初の官民共同の刑務所「美祢社会復帰促進センター」の再犯ゼロを目指す取り組みを支援しようと開かれました。本学教員やセンター職員、行政関係者らによる基調報告やパネルディスカッションがありました。

2/11

○「生活習慣改善指導士」認定証授与

昨年度より地域の保健指導で、中心的役割を果たす人材養成を目的に、現職の管理栄養士を対象とした「栄養士キャリアアップ研修」を実施しています。今年度、所定の基準に達した修了生10人に対して、本学から認定証を授与しました。



6か月にわたって開催された
栄養士キャリアアップ研修

2/14~15



認定看護師教育課程の入学試験

○県内初の認定看護師教育課程入学試験実施

県内では初めてとなる認定看護師教育課程（感染管理分野）の開設にあたり、第一期生の入学試験を実施しました。教育期間は、平成21年8月から平成22年2月まで。修了生は日本看護協会による認定審査の受験資格を得るとともに、学校教育法に基づく本学の履修証明書が交付されます。

3/18

○平成20年度卒業証書・学位記授与式

学部生329人、大学院生26人が母校から巣立ちました。特に今春は、平成18年度に設置した健康福祉学研究科健康福祉学専攻の博士後期課程から初の修了生2人が誕生しました。



学位記を受け取る博士後期課程修了生

Welcome to
▶▶▶▶▶ LAB

研究室紹介

国際文化学部 文化創造学科
日本史研究室
准教授 伊藤 幸司



私の学問領域は日本中世史ですが、主に海域アジア史、山口・

九州の地域史、禅宗史などを勉強しています。

海域アジア史については聞き慣れない用語ですから、少し説明します。日本社会は、常に列島外との交流の影響を受けて歴史を形成してきました。こうした前提を無視し、「日本」という枠組みのみを切り出して歴史を考察しても意味はありません。同様に世界史といえば、日本を除いた世界の歴史になっている高等学校までの歴史教育は是正されるべきであり、日本史といえども世界の歴史を構成する重要な要素として位置付けられるべきでしょう。こうした問題点を克服するため、日

本を含むアジアの歴史を海の視点から見ようとする海域アジア史が注目されています。昨年には共同執筆という形で『海域アジア史研究入門』（岩波書店、2008年）というものを出版しました。

山口地域の歴史は、その地理的環境もあって、アジアとの交流の軌跡が少なからず見られます。山口も海域アジア史の一部を構成しているのです。市内にもそれを物語る痕跡をあちこちで確認できます。今後、日本史研究室のゼミ生と一緒に、このような身近な歴史を少しでも発掘し、皆さんに発信していければと思っています。

私の担当は主に栄養教育です。保健所の栄養士から管理栄養士養成に転じて、早くも10年がたちました。その間、栄養士法の一部改正や食育基本法の制定、栄養教諭制度の創設、特定健診・特定保健指導のスタートなどの制度改正があり、管理栄養士に求められるものは年々、専門化、高度化しています。

研究室には、地域の栄養教育活動に興味を持つ学生が集まってきました。これまで「対象者が主体的に食生活上の問題点に気づく栄養教育内容について」「男子高校生を対象とした学校における個別栄養相談の実践について」「ふれあいいきいきサロンにおける栄養教育について」など、

さまざまなライフステージの栄養教育をテーマに卒業論文をまとめてきました。卒業研究は対象者の実態、ニーズ調査から関係者との打ち合わせやその準備、教材作成など夜遅くまで続きます。予想以上にハードな内容ですが、学生はそれを乗り越えて、大きく成長します。その姿が誇らしく、教員としてのやりがいを感じます。わたしも現場の感覚を忘れないよう、行政機関や栄養教諭が配置された小中学校との共同研究に取り組んでいます。

2007年からは本学の教員や県内の栄養教諭らと大学で自主研修会を始めました。児童・生徒の発達段階を考慮した食に関する指導の体系化に取り組んでい

ます。今後は学生も加えて、みんなで議論を深める場にしたいと思っています。

看護栄養学部 栄養学科
栄養教育研究室
准教授 水津 久美子





▶▶▶▶ Watch Lecture 講義紹介

社会福祉実習

社会福祉学部 社会福祉学科
よこやま まさひろ
教授 横山 正博

社会福祉学部の学生は、社会福祉士国家試験の受験資格を取得するために、社会福祉の現場で実習を行います。

2年生では社会福祉施設の見学、ソーシャルワーカーや福祉サービス利用者からの特別講義、面接技法の演習、車いす体験などのプログラムがあります。本学部の特徴として、学生が地域の老人クラブや子育てサークルの方と一緒に活動内容を考え、実践するプログラムがあります。高齢者や子育て中のお母さんと触れ合う中で、生活の様子や地域の課題などを把握し、ソーシャル

ワーカーとしての基礎能力を身につけます。

3年生の8月から9月にかけて、福祉事務所や児童相談所などの福祉行政機関の実習を約3週間行います。主に社会福祉制度の基本や、行政のソーシャルワーカーが、どのように地域住民を支援しているかを学びます。最近では、生活困窮の問題が注目されています。実際に学生は、ソーシャルワーカーと一緒に困窮家庭などを訪問し、現代の貧困を取り巻く現状や課題に、意欲的に向き合います。

さらに3年生の2月から3月にかけて、児童、障害者、高齢者などの福祉施設で約3週間の実習を行います。子どもや障害者の方と丸一日かわり、泣き笑いをともにし、ソーシャルワーカーとしての応用能力を身につけます。

一連の実習を終えると、まだ一人前とは言えませんが、学生の顔つきがたくましくなっていくのがよくわかります。これからの福祉を担う学生たちを温かく励ましていただければと思います。



▶▶▶▶ Consultation 相談の森

皆さんから寄せられたさまざまなご質問に、専門領域の本学の教員がお答えします。

Q

私は地域の人達の心身の健康相談を受けています。対応が難しいのは、間食がやめられないとか頼まれるとつい引き受けてしまうというように、頭でやめようと思っても、なかなかできない場合です。このような悩みを持つ人たちをどのように支援していけば良いでしょうか [57歳 男性]

A

問題の背景に複雑な感情がない場合は、その行動が問題であることを伝えるだけで行動が変わることはよくあります。しかしながら、その問題にいろいろな感情や思いがからまっている場合、習慣化している場合は、その行動が望ましくないと伝えるだけではうまくいかないことが多いようです。

習慣化している場合は、感覚・行動への働きかけが有効です。例えば、望ましい行動の時に自分に報酬を与える。家族の協力を得て、望ましい行動が触発される環境を整えるなどの方法があります。また望ましい行動に具体的スキルが必要である場合には、その練習をする必要があります。

望ましくない行動をしてしまう背景として、生活上のストレスや何らかの意図が存在する場合があります。いずれも、望ましくない行動に変わる新しい（その人が肯定的に評価できる）行動によって、ストレスの解消や生きがいの希求といった肯定的意図を満たすことが必要になります。

ある行動の背景として、成長する間に身につけてきた感情や信念、人生脚本がある場合は改善が困難かもしれません。例えば「自分はいい子でないと見捨てられる」といった本人も気づいていない信念がある場合、いつも他者の顔色をうかがうことになります。この場合は相談者と相談に応じる人との関係の質が重要です。相談に応じる人が無条件の肯定的関心を示すことは、相談者にとって、他者への安心感や信頼感を養う基礎となります。



看護栄養学部 看護学科
ひろせ はるじ
教授 廣瀬 春次
(専門領域:臨床心理学)

▶▶▶▶ Interview's Student's

学生紹介

いま、キミは輝いて

大学生活

社会福祉学部
社会福祉学科3年
くぼ ゆう き
窪 祐樹さん
【華月祭実行委員長】



私は、山口県で生まれ育ちました。高校時代に祖父や身近な人との別れを経験したことから「福祉」を深く学びたいと社会福祉学部に入學しました。1年生の前期は、講義についていくことで精いっぱいでしたが、2年生になると新入生の宿泊オリエンテーション、水無月祭などの大学行事に積極的に関わりました。

中でも、華月祭の実行委員長が一番の思い出です。華月祭は男女共学となった平成8年から毎年11月に開催されている学園祭です。実行委員33人の意見集約や、外部の業者さんとの連絡係が実行委員長の主な役割でした。10月から本格的に始動し、準備期間は実質1カ月間でしたが、同じ志を持った実行委員の頑張りや、華月祭に参加した人の心に、色褪せない思い出をつくったと思います。

これまで、人の先頭に立って、リーダーシップを発揮するのは苦手でした。しかし、今回の経験で活動しやすいムードをつくり、精神面の支えになるという新たなリーダーシップ

を手に入れた気がします。

大学生活のメインは勉強です。けれども講義だけでは学べないことが、大学生活にはたくさんあります。これからも多くの出会いを大切に、自分を成長させていきたいと思っています。



中央が窪さん

人生は経験で創られる

国際文化学部
国際文化学科4年
ほんこぼら みはる
盆子原 三晴さん
【釜山からもおいでませ山口へ調査隊長】



山口県立大学3年目の昨年度は、とても充実した1年になりました。その1つが、ゼミで取り組んだ『釜山からもおいでませ山口へ』調査隊です。下関市のフェリー乗り場で韓国人旅行者を対象に、山口県の観光動態をアンケート調査しました。山口県などから後援をいただき、約900人を対象にした調査は無事に終わりました。

調査は試行錯誤の連続で、韓国語でのアンケート用紙の作成やアンケート協力をお願い、データ集計など挙げるときりがないほどです。隊長として、隊員が責任持って取り組めるよう分担作業を導入しました。また調査を通して、一期一会という言葉の重みも感じました。現在は休学して、ニュージーランドで日本語教師のアシスタントをしています。この一年の山あり谷ありの経験を経て、一回り大きく成長して帰国したいです。

わたしは自分の将来を見つめるとき、何をしたいか、わかりませんでした。しかし、さまざまな人の話を聞き、行動しないと何も始まらないことに気付きました。調査隊の取り組みも海外生活もその表われかもしれませんが。今こうして、多くの人に出会い、考え、成長できるのは、支えてくれる両親のおかげです。感謝の気持ちを忘れず、人生を歩んでいきたいです。



左端が盆子原さん

▶▶▶▶ Circle Report

陸上競技部

陸上競技部は、今年で結成6年目のまだ若いサークルです。しかしメンバー約30人は日々、精力的に練習しています。部の特徴は、自己記録の更新や全国大会を目指すアスリート型から、楽しく走ることや健康づくりを目的にしたファンラン型まで、さまざまなメンバーがいることです。目標は、それぞれ違いますが「走ることが好きだ」という気持ち

サークル紹介

ちは変わりません。だからこそ、陸上という個人競技にもかかわらず、明るく活気あるチームワークが存在するのだと思います。

「走ることが好きな思いは一つ」

今年1月に開催された山口市駅伝の混成の部で、2年連続優勝の快挙を成し遂げました。昨年5月の中四国インカレでも女子走り幅跳びの優勝をはじめ、ロードレースやフルマラソンも好成績をおさめました。最近では他大学や地域の方に、県



立大学陸上競技部の存在と活躍を知ってもらえるようになりました。

これからは陸上競技に対する熱い気持ちを忘れず、練習を重ねて、少しでも成長していけるように頑張っていきます。



Exchange Program

交換留学

- ① 留学先大学の印象
- ② ホストファミリーとの1番の思い出/寮生活の1番の思い出
- ③ 留学中に訪れたお気に入りの場所とその理由
- ④ 留学先大学の授業の印象
- ⑤ 留学中に参加した課外活動と思い出

山口県立大学は中国・韓国・アメリカ・カナダ・スペイン・フィンランドの7大学と学生や教員の交流、地域社会の国際化を進めています。今回はカナダのケベック州にあるビショップス大学との交換留学生にスポットを当てます。

●●●ビショップス大学へ●●●

国際文化学部国際文化学科4年
ふくどみ なつき
福富 菜月さん



中央が福富さん

- ① 建物がとても素敵なところ
です。ライティング・センター
という学生のレポートを添
削してくれる所やジムなどの
施設が充実していて、大変便利だなと感じました。
- ② ボグ・メート（いわゆるルーム・メートです。）と仲良くなれたことです。ご飯を一緒に食べたり「トイレ掃除はどうする？道具はどこ？」と話し合ったりして、楽しくコミュニケーションできたことです。
- ③ 私のお気に入りは大学周辺です。ビショップス大学はフランス語圏の町にありますが、大学周辺のお店では店員さんがお客によって、フランス語と英語を使い分けて話します。このやりとりが不思議で魅力的で「私もあんな風にバイリンガルになりたい。英語を上手に話せるようになりたい」と思い「もっと頑張ろう」と学習意欲が出てきます。
- ④ わからないところがあれば、学生がすぐに手を挙げて質問するところ。授業中、質問することにより慣れていない私は、いつも圧倒されます。また、プレゼンテーションが多く、前学期は、ほぼ毎週何かの授業でプレゼンテーションの課題が出て準備や練習に追われました。
- ⑤ 日本語クラブに参加していることです。日本の文化やあそびを、日本語を学ぶ学生や日本の文化に興味のある学生と和気あいあいと楽しんでいます。活動を通して友人も増え、自宅の夕飯パーティーに、招待してもらったことが大変楽しい思い出です。

●●●山口県立大学へ●●●

ビショップス大学2年

エリオット・ヴェローさん



左端がエリオットさん

- ① 県立大学の規模は小さいけれど、きれいな山に囲まれたキャンパスが大好きです。日本はカナダから遠く、文化の違いの心配もありましたが、優しいホストファミリーや友人に囲まれて、とても楽しいです。ぜひ、県立大に来てください！
- ② 毎晩、寝る前にホストマザーが部屋に水とみかんを持って来てくれます。その時に、いつも、いろいろな話をします。すごく楽しくて、日本語の勉強にもなります。
- ③ 冬休みにいろいろな所へ旅行しました。一番面白かったのは、長野県の田舎でした。アメリカの留学生ジョシュさんと馬籠から妻籠まで約3時間かけて歩きました。そして、妻籠で民宿に泊まったことが、よい経験になりました。民宿の人は日本語しか話せませんでしたが、方言を使われてて楽しかったです。
- ④ どれも面白くて、特にエイミー・ウィルソン先生の異文化交流論と近藤淳子先生の国際関係論が好きです。ウィルソン先生の授業は、日本と北アメリカの文化の違いについて話しているの、日本について、いろいろ学べました。さらに、カナダとアメリカの文化についても、多くの事を知り、驚きました。近藤先生の授業も、とても面白くて、毎週授業中にお茶を飲んだり、お菓子を食べてみます。それをいつも楽しみにしています！
- ⑤ 山口県立大学のwhat's up (ワザップ) というサークルに参加しています。一緒に楽しくバスケットボールをします。チームをいつも換えるので、たまに自分のチームのメンバーがわからなくなって、間違えるのも面白いです。



ビショップス大学

カナダ・ケベック州

ビショップス大学はカナダ南東部ケベック州のレノックスビルという街にある私立大学で静かな環境の中に美しい建物が並んでいます。1843年にイギリス国教会の支援を受けて創立され、フランス語圏のなかで英語教育を行なう伝統を維持し、英語を学びたいという学生が集まる拠点のひとつとなっています。サマープログラムには英語・フランス語や文化を学ぶ学生が、国内外から大勢集まってきます。本学からも毎年サマースクールに学生を送っています。

学生数は1,850人、教員数は125人で、本学と同じような規模の大学です。学生の多くがキャンパス内にある7つの学生寮で生活し、芸術、科学、ビジネス、教育などの分野で教養ある学生を送り出す大学として定評があります。学内には25の建物、2つの図書館、2つの講堂、教会、ジム、プール、ゴルフコースなどがあり、キャンパスからサイクリングロードを使い、森の中を歩いて近くの街まで自転車で行くこともできます。

日本語を学ぶ学生は、本学の日本語ティーチングアシスタントの運営する日本語クラブで自主的に学習をしています。ケベック州では日本の6大学に交換留学生を派遣しています。本学とは2002年の学術交流協定締結以降、08年度末まで、8人を受け入れ、7人を派遣しています。本学を希望する学生が多いのは嬉しいことです。

新任教職員紹介・当初予算概要

平成21年度の新規採用教職員です。どうぞよろしくお願いいたします。

教員

県立こころの医療センターから赴任してきました。企業や総合病院等もウロウロしてたので現場向き、活動向きと誤解されますが、実はとても



も小心者。そんな私でも、進路に迷った学生さんに途中下車やより道の薦めくらいなら出来るかな…?

社会福祉学部社会福祉学科 ながもと ゆたか
准教授 永本 隆
専門領域:精神保健福祉

私は、がんの専門病院で看護師として、がん患者と家族のケアに関わってきました。現在は、在宅がん患者の家族介護者支援を研究しています。



これまでの臨床経験を基に、学生の皆さんと共に患者・家族ケアを考えたいと思っています。

看護栄養学部看護学科 ごと みゆき
講師 後藤 みゆき
専門領域:老年看護学

管理栄養士が携わる給食経営管理論分野において、新調理システムを研究しています。何事にも前向きな姿勢で臨み、助手として先生方、学



生さんのサポートを心掛け、新しい土地山口での生活も楽しみにしています。

看護栄養学部栄養学科 はらだ りょうこ
助手 原田 良子
専門領域:給食経営管理論

職員

①出身地 ②趣味・特技 ③自己紹介



①宇部市
②旅行、温泉
③何事もプラス思考から入る性格です。日々、今日しかできないことを見つけて、全力で取り組んでいます。

経営企画室

か がわ まさひろ
香川 正宏



①下関市
②ボランティア活動、ドライブ、ウォーキング、温泉
③「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えることができる」を胸に日々、皆さんと成長していきたいと思っています。

総務部総務グループ

きち せ ゆきひろ
吉瀬 行彦



①愛媛県西条市
②美味しいものを食べる
③新入生に負けたくないよう、フレッシュな気持ちで頑張りたいたいと思います。皆様よろしくお願いいたします。

総務部経理グループ

いい お もとこ
飯尾 素子



①宇部市
②食べあるき、飲みあるき
③愛媛・松山から帰ってきました。忘れかけていた山口弁を思い出しながら、早く一人前の職員となれるよう頑張ります。

教育研究支援部教務グループ

おかだ たけし
岡田 武士



①山陽小野田市
②バスケットボール、ドライブ
③大学勤務は初めてですが、皆さんと一緒に、より良い県立大学をつくっていききたいと思っています。

教育研究支援部教務グループ

お ざき こういち
尾崎 康一



①長崎県佐世保市
②ドライブ、ハンドボール
③さまざまな仕事に進んで挑戦し、大学運営に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。

教育研究支援部教務グループ

おお ぬま さだき
大沼 貞哉



①宇部市
②腕時計と万年筆の収集と使用
③人生の大半を九州で過ごし、20数年ぶりに山口に戻ってきました。どうぞ、気軽に話しかけて下さい。

学生支援部学生支援グループ

まつ だ かずなり
松田 和也





平成21年度の予算

【当初予算の総額】

(単位 千円)

区分	平成21年度A	平成20年度B	A-B=C	C/B (%)
収入支出予算額	2,066,350	2,117,475	△51,125	△2.4

【主な取組などの紹介】

教育・学生支援・学び直しプロジェクト (GP補助金事業) の推進

- 現代GP やまぐち多世代交流・地域共生授業の展開
持続可能な社会に繋がる人的財産の育成
- 特色GP 重層的な学生支援教育による福祉人材養成
- 学生支援GP 総合的人間関係力を涵養する学生支援
- 学び直しGP 栄養士キャリアアップ支援プログラムの開発

認定看護師教育課程の開講

病院等の施設において感染管理の中心的役割を果たすことができる人材を育成するため、認定看護師教育課程を開講します。



教員免許状更新講習の開講

教育職員免許法の改正により、平成21年4月1日からスタートする教員免許更新制に対応し、教員免許状更新講習を開講します。

オープンカレッジの開催

大学の授業を公開する「公開授業」、出前でお届けする「公開講座」、専門的な「やまぐち桜の森カレッジ」や「サテライトカレッジ」、現職者のスキルアップのための「キャリアアップ研修」など、さまざまなオープンカレッジを開催しています。ご参加をお待ちしています。

【心と身体の相談室の開設】

本学の専任教員の専門性を生かした相談事業に取り組みます。



平成21年度開設予定の講座やその日程など、くわしいご案内は、別途発行予定の「生涯学習・リカレント教育情報」やホームページなどでお知らせします。お気軽にお問い合わせください。

就職対策の推進

県立大卒業生との協働によるキャリアサポートシステムの整備、ミニインターンシップの推進など、就職対策に積極的に取り組みます。

学業成績優秀者奨学金制度の創設

学業成績優秀者に対する奨学金制度を創設します。1年間の周知期間を経て、平成22年度から支給を開始します。

学生への支援は？



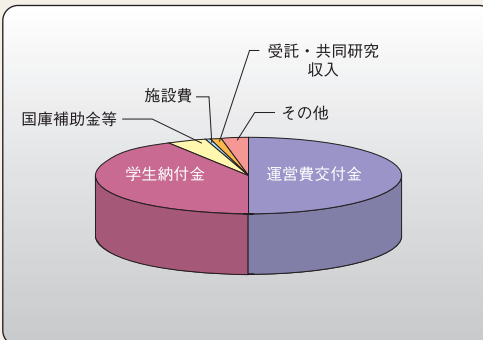
ボランティア窓口の設置

学生の自主的な活動と地域の要請をつなぐ情報窓口を整備します。

学生スタッフ制度の推進

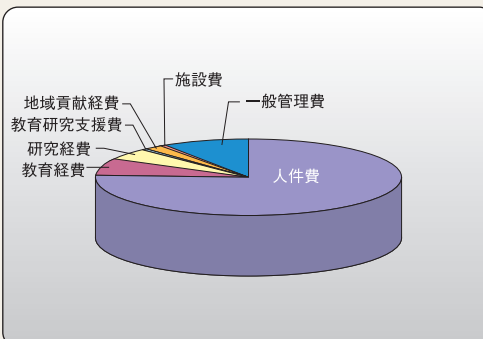
学生に大学の公的活動や地域活動に主体的に参画する機会を提供し、併せて奨励費を支給する取組を行っています。

【収入】



- ◆運営費交付金と学生納付金とで18億68百万円と全体の90.4%を占めています。
- ◆運営費交付金は、中期計画期間中 (H18~23年度) の総額62億円の範囲内、山口県から交付されます。(H21:10億32百万円)
- ◆受託・共同研究収入は、毎年、20%増の獲得を目指しています。(H21:16百万円)

【支出】



- ◆人件費が支出予算総額の約4分の3 (72.7%) を占めていますが、給与の減額措置等により、前年度比で6.0%減少しています。なお、人件費の約74.4% (11億16百万円) は教員人件費となっています。
- ◆認定看護師教育課程や教員免許状更新講習の開講により、地域貢献費は、大きな伸び (63.0%増) となっています。

国際化の取組

留学生地域交流

「県立大学留学生との出会いから始まる世界への窓」をテーマに、本学教員と留学生による国際理解教育講座を5地域で開催します。

姉妹校との交流の推進

教員の相互派遣等、海外の姉妹校とのさらなる交流の推進に取り組みます。

また、学生が姉妹校において語学や文化を実際に体験できる研修を正規の授業に組み入れるなど、海外研修プログラムを活用した国際教育を進めます。

Topics

■福田百合子名誉教授が瑞宝中綬章を受章

昨年11月の秋の叙勲で、福田百合子名誉教授が瑞宝中綬章を受章されました。福田名誉教授は県立大の前身、県立女子専門学校に入学。国文学が専門で卒業後も山口女子短期大、山口女子大の教壇に立たれ、多くの学生を指導されました。



瑞宝中綬章を受章された
福田百合子名誉教授

退官後は中原中也記念館(山口市)の館長を務められたり、地域の読書会講師をされたりと幅広く活躍中です。県立大学においても附属郷土文学資料センター運営協議会委員や、同窓会桜園会理事として支部会に積極的に参加されるなど本学の心強い応援団です。

本学学生に対して「風土、地域の人たちを含めて大学を愛してほしい。誇りある母校を自分たちが引き継ぎ、また作り上げ、後輩に伝えていく。その意気込みを持って大学生生活にのぞんでほしい」とエールを送っていただきました。一層のご活躍をお祈りしたいと思います。

Campus Schedule

4

APR

入学式、新入生オリエンテーション、前期授業開始

5

MAY

開学記念日・開学記念行事

6

JUN

水無月祭、グローバル学生交流

7

JUL

オープンキャンパス、前期末試験

8

AUG

夏季休業、海外語学・文化研修、AO入学試験(一次選抜)

9

SEP

秋季卒業式、AO入学試験(二次選抜)、3年次編入学試験

編集後記

平成21年3月春分の日 阿野 徹生(経営企画室長)

生命力に満ち溢れた春の息吹を感じる新入学・進級の時季となりました。期待に胸を膨らませながら、大学の門をくぐり抜ける新入生を迎えるたび、私たち職員も新たな気持ちになります。

県立大学広報誌「やまぐち桜の森通信」も、おかげさまで創刊から1年を迎えました。学年でいえば「2年生」となります。初々しい新入生も、年を追うごとにたくましく成長していきます。彼らのように私たちも初心を忘れず、今後も愛される広報誌づくりに努めてまいります。皆様からの感想、ご意見をお待ちしています。



〒753-8502 山口県山口市桜島3丁目2番1号
Tel.083-928-0211 Fax.083-928-2251
<http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/>
※Web動画配信も行っています。



国際文化学部文化創造学科の学生が、授業の一環として山口市荒高地区の活性化を目的に、町のシンボルとして「花の絵」を制作しました。

※広報誌のタイトルは、理事長の直筆です。